

宮崎県知事 河野俊嗣



謹んで新年のお喜びを申し上げます。

県民の皆様には、日頃から県政の推進につきまして温かい御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、我が国では、少子高齢化・人口減少が急速に進行する中、依然として東京一極集中の傾向が続き、地方においては、あらゆる分野で労働力不足が深刻化するなど、将来にわたって持続可能な地域づくりが求められております。

このような中、本県では、これまでの取組の成果が着実に現れてきており、新たな成長に向けた流れができつつあります。

昨年は、東九州自動車道では日南市の、九州中央自動車道では日之影町の一部区間が完成し、日南地区と西臼杵地区において、それぞれ初の高速道路が開通しました。加えて、国内外を結ぶ航空路線の充実や、長距離フェリーの航路維持に向けた「オール宮崎」での新会社設立など、本県経済の礎となる交通インフラの整備が進展しています。

また、本県では初となる宮崎市、西都市、新富町の古墳景観の「日本遺産」認定や、アカデミー賞授賞式のアフターパーティーでの宮崎牛の採用、本格焼酎出荷量の4年連続日本一など、本県の強みを生かした取組が実を結んでいます。

さらに、今年、日本で開催されるラグビーワールドカップでは日本代表やイングランド代表の、2020年東京オリンピック・パラリンピックではドイツの陸上チームとカナダのトライアスロン・パラトライアスロンチームの事前キャンプが決定したほか、東京オリンピックの予選も兼ねる「2019 ISA ワールドサーフィンゲームス」が今年9月に宮崎市で開催されることが決定するなど、本県の優れたスポーツ環境が世界に認められつつあります。

これら世界規模のスポーツ大会が次々と開催される「ゴールデン・スポーツイヤーズ」に加え、2020年に本県で開催される「国民文化祭」「全国障害者芸術・文化祭」、2026年の2巡目国体・全国障害者スポーツ大会など、国内外に本県の魅力をアピールする絶好のチャンスを迎えようとしています。

こうした追い風をしっかりと捉え、本県の更なる発展につながる取組を進めてまいります。水産業におきましては、「第五次宮崎県水産業・漁村振興長期計画（後期計画）」に基づき、様々な施策を行っております。特に、重要な担い手の確保と資源の有効活用による生産と販売の拡大を目指して、「未来へつなぐ漁業担い手プロジェクト」と「魅力ある水産業の構築プロジェクト」の2つのプロジェクトを立ち上げ、重点的に施策を展開しているところです。

具体的には、漁船リース事業などの国の事業を活用し、収益性向上の基盤となる漁船や機器の更新を進めており、また、公益社団法人宮崎県漁村活性化推進機構を核として新規就業者受入れに関する情報を一元管理して積極的に情報発信する「新規就業者応援バンク」を設置するなど、就業や漁業承継の促進に取り組んでおります。

また、本県水産物の販売力を強化するため、県漁連や加工業者の皆様と連携しながら、水産加工品

の開発や新たな販売体制の整備などを進めております。この取組として、昨年10月に開催された県水産振興大会において、宮崎海洋高等学校の生徒がメニューを考案した、県内産のフカやハモなどを使用した宮崎県産魚御膳を、私も受賞者の皆様と一緒に味わったところです。

持続可能な水産業・漁村を築いていくため、今後とも、漁業者の皆様とともに関係者一丸となって全力で取り組んでまいりますので、一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

「平成」という時代が、終わりを迎えようとしています。今年が、安心と希望あふれる新しい時代の幕開けとなりますよう、また、県民の皆様にとりまして笑顔に満ちた明るい年となりますよう、心からお祈り申し上げます、年頭の御挨拶といたします。